

## 自分なりのキャリアを見付けるために



株式会社ライフ・ポートフォリオ

代表取締役 社長 まえはら 前原 はづき Hazuki Maehara

今後のキャリアを考えるに当たって、「自分と職歴やライフスタイルが共通するロールモデルの先輩が身近に余りいないので、何を参考にすれば良いのか分からない」、「育児や介護で時間制約がある中でキャリアアップしていく自信がない」といった不安を抱えたことはありませんか？

女性のキャリア形成支援やダイバーシティ推進に関する企業研修等に取り組まれている株式会社ライフ・ポートフォリオ前原はづき代表取締役社長に、自分なりのキャリアを見付けるためのヒントを教えてくださいました。



### ■ ロールモデルは「青い鳥」幻想

『ロールモデルがない』—— 女性活躍推進の取組の中で、必ず出てくる言葉です。ですが、この「ロールモデル探し」…本当に意味があるのでしょうか？

実際にロールモデルを紹介されたとき、後輩世代の女性陣から出てくる反応は「自分とは違う」という言葉のオンパレードです。「すご過ぎて参考にならない」、「私はあになりたいわけじゃない」、「実家が近くだからできること」、「理解のあるパートナーで羨ましい」等々…。

キャリアの考え方や基本的な能力、生活環境は人によって千差万別。「この人こそ我が理想!」というような都合の良い人は、そう簡単には見付きません。

加えて、「社会背景の違い」という大きな要素もあります。先輩世代と自分とは、そもそも生きている時代が違います。単純に自分に当てはめられる事例など、存在するはずがないと思いませんか？

例えば、職場にパソコンが普及したのはたった20年前。スマートフォンが発売されてから、まだ10年程です。今盛んに論じられているテレワークも、20年前には「技術的にあり得ない」働き方でした。

皆さんが「ロールモデルはいないかな」と眺めている先輩方は、今とは違う、それぞれの時代の中で、自分自身のベストを尽くして道を切り拓いてきたのです。そんな先輩方を見て、「自分の理想と違う」と難癖を付けるというも、随分失礼な話ではないでしょうか。

皆さんの目の前には、先輩が切り拓いた

茨の道が「舗装済みのハイウェイ」として広がっている。その結果、先輩の働き方がハード過ぎると感じたり、逆に物足りなく見えたりするのは、ある意味当然のことかもしれません。

先輩の作った道を通して、先輩よりもっと先に進んで行く。それが皆さんの道——キャリア、そして人生——なのです。

### ■ “ロールサンプル”を増やそう

ロールモデル探しは非現実的——とはいえ、先輩から学べることはたくさんあります。大切なのは、「自分の理想を体現した唯一無二のモデルケース」を求める意識を捨てることです。

私はキャリアについてお話する際、男女問わずできるだけたくさんの「ロールサンプル」を探すことをお勧めしています。職業人として、家庭人として、趣味人として、人生の先輩として…魅力的なところ、まねしたいところを持った同僚・先輩・上司を見つけ、その“要素”を学べば良いのです。

これであれば「私とは違う!」ということもありません。たくさんの人から学んだ要素を、自分なりに咀嚼して、オリジナルのスタイルを作り上げていけば良いのです。この小冊子(女性国家公務員のワークスタイル事例集)も、ロールモデルを探そうと読むのではなく、「参考にできる要素はないかな?」と読み込むと、より深く・広く役立てることができるようではないでしょうか。

もちろん、たくさんの「ロールサンプル」から集めた要素を一つのスタイルにまとめ上げる

ことは簡単ではありません。でも、それこそが、皆さんが自分自身の人生を考え、選び取っていくプロセスと言えるでしょう。手間を惜みせず、知恵を絞って、じっくりと正面から取り組む価値のあるテーマだと思いませんか？

## ■ 一生の時間軸で考えよう

同時に皆さんに考えていただきたいのが、上を目指して猛スピードでステップアップすることだけがキャリアではない、ということです。育児や介護といった家庭の事情や、御自身の健康上の不安などから、キャリア形成が一時的にスローペースになることもあるでしょう。

キャリアとは、人と競い、トロフィーを獲得することではありません。一人の人間として仕事に真剣に向き合った時間、一つ一つの経験の積み重ねそのものが、皆さんのキャリアになっていきます。

これからの時代は、一人の人が50年程度の職業人生を送ることが一般的になっていくでしょう。介護や育児で、5年～15年間にわたって働き方に制約が出たとしても、職業人生全体から見れば限られた期間でしかありません。

人との競争ではなく、自分の時間・人生という有限の資源の中で、自分がどのように働き、暮らしていきたいかを突き詰めて考える中で、だんだんと自分なりの“最適解”が見えてくるはず（これは、女性にだけ両立生活のために妥協しろという話ではありません。男性も、仕事人間的な生き方を強いられる社会で、自分の人生の在り様や家庭との関わり方を模索して、日々悩んでいます。）。

一方で、50年の職業人生を真剣に考えるなら、一人一人の働き手が、自分の責任において少しずつ成長し、変化に対応し続けていくことが求められます。これまで以上に技術の進化がスピードアップし、AI（人口知能）の活用などでヒトが行うべき仕事も様変わりしていくでしょう。

「現状維持で定年までいられればいい」「新しいチャレンジはしたくない」という意識で10年・20年過ごしていたら、職場に自分の居場所がなくなっていく時代です。ちょっと怖いお話ですが、日々の仕事の中で小さな成長を続けていけば、そんな事態は回避できるはず。

キャリア形成とは、「意識の高い人の考える、野心的なこと」ではありません。自分と自分の大切な人を守っていくために必要な、小さなチャレンジの積み重ねでもあるのです。

## ■ キャリアの「積み上げ」と「幅出し」

そして、キャリア形成について皆さんにお伝えしたいのは「積み上げ」のキャリアに捉われず、「幅出し」も意識してほしい、ということです。

一般に「キャリア形成」というと、一つのテーマや分野で経験を積み上げて知見を深めていく「積み上げ」をイメージされる方が多いように思います。そのため、異動などで全く異なる分野や担当業務に変わることで「今までの経験が無意味になってしまった」とやる気を失ってしまう人も少なくありません。

ですが、分野や担当の変更はキャリアの「幅出し」ができる得難い経験です。一時は、

新しい環境や業務に大変な時期もあるでしょうが、キャリアに文字どおり“幅”、つまり広がりが出てくるのです。

一つ分野・担当でキャリアを積み上げるといっても、どこかのタイミングで成長がストップしてしまうことが多いものです。新しいテーマに取り組み、キャリアの「幅出し」を行うことで、様々な力や視点が備わり、より働き方の可能性が広がっていきます。

ぜひ、キャリアの「幅出し」を意識して、様々な業務や分野にチャレンジしてみてください。

## ■ 仕事は人生を切り拓く“武器”

輝きなさい、管理職を目指しなさい、そして良き母、良き妻に——そんな社会からのメッセージに、息苦しさを感じている方もいるでしょう。でも、それは他人の言うことです。他人の決めた合格点を取るのではなく、ぜひ、御自身のために、生きること、働くことを考えてほしいのです。

仕事は本来、皆さんの時間を奪う苦役でもなければ、責任を負わせ押しつぶすものでもありません。皆さんの人生を自由なものにし、大切な人を守る力を与えてくれる、心強い味方になり得るものです。

つまり、キャリア（働く経験）とは「人生を切り拓く武器」と言えます。仕事の経験やそこで培った力は、役に立つことはあっても、邪魔にはなりません。

「30年間、女性の働く環境は全く変わっていない」という方もいますが、丁寧に見ていくと

着実に社会は変化しています。現在の介護・育児環境の課題も、刻々と状況が変わっています。大切なのは、常にアンテナを立て、自分に必要な情報にアクセスしていくこと。そして、状況に応じて工夫を積み重ねていくことです。

その時、どう働き、どう両立するかは、その時にならなくては判断が付きません。今からあれこれと細かくシミュレーションをして不安になるよりも、まずは力を付け「いろいろな選択肢を選ぶ自分」になることを目指してほしいと思います。

仕事を味方に、皆さんの人生を豊かに切り拓いていってください。

私も、皆さんと一緒に、楽しみつつ進んでいきたいと思っています。

